

# 國策として見たる我が滿洲農業移民 (二)

松 崎 實 次

## 第一序 說

### 第二 滿洲農業移民の必要性

- 一 國防上の必要
- 二 内地人口問題、農村問題解決上の必要
- 三 經濟的利益の永久確保上の必要
- 四 日本文化普及上の必要
- 五 滿洲國の産業開發上の必要
- 六 滿洲國の治安維持上の必要

### 第三 滿洲農業移民の可能性

- A 滿洲農業移民成功の見込なしとする説並に之に對する卑見
- 一 滿洲事變以前に於ける移民の結果を見て其の後に於ける滿洲移民も失敗に歸すべしとする説
  - 二 先住民との關係より見て失敗すべしとなす説
  - 三 日滿農法の相違より見て成功の見込なしとする説

國策として見たる我が滿洲農業移民

## B 滿洲農業移民可能論の論據

- 一 滿洲國の氣候風土
- 二 農業適地の豊富
- 三 地味の肥沃
- 四 我が政府の保護
- 五 生活程度向上の可能

(未完)

## 第一序 説

滿洲に於ける我が農業移民は後に述べる様に可成古くから行はれて居り、小村壽太郎侯、兒玉源太郎伯、後藤新平伯等の先覺者も夙に其の必要を認めて之が實行を力説せるのみならず、計畫を樹立して其の實現に努力せられたのであるが、當時未だ我が國に於ては人口・經濟・社會・國防其の他に於て此地方へ多量の移民を送らねばならぬ事情に迫られて居た譯ではなかつた。従つて政府でも移民に對して熱意を欠き、根本的な調査研究をすることもなく又積極的に之が計畫を樹てることもなく、其の助成にも進んで力を致すに至らなかつたのである。他方一般國民の移民熱も冷かであり、識者も少く輿論もたいして興つて來なかつた。特に滿洲に對する智識も少なく我が農業移民地として滿洲が有望であるといふことさへ知られてゐなかつたのである。それ故に朝鮮や内地から多少の移民は出たけれども、國策として移民を大量に滿洲に移すといふ様なことはなく、言はず自然の必要に迫ら

れて三々五々自力更生の意味で移住したに過ぎず、その成績も概して思はしくなかつたのである。然るに滿洲事變は我が滿洲移民問題に對する新しく且つ強力なる刺戟を朝野に與へたが、丁度其の時分には既に日本の國內的並に國際的事情が往年とは著るしく變化し、次に述ぶるが如き種々なる理由に依り大量農業移民を必要とする状態にあつたから、政府も國策的見地から積極的に之が計畫を樹立し、着々其の實現に努むる様になり、一般民衆も亦滿洲事情にも追々通ずる様になり、進んで滿洲に移住して自己の爲め、子孫の爲め將又我が帝國の爲めに諸問題の解決を圖り、出で、大いに働き度いと希望を有するものが激増して來たので、移民熱が頗に高まつて來た譯である。

然らば現時何故滿洲に大量農業移民を送る必要があるか。次に其の理由の重なるものに就いて考察する。

## 第二 滿洲農業移民の必要性

### 一 國防上の必要

近代國家の成立以來各國はそれ／＼の立場に於て政治・産業・經濟・財政・思想・文化等の發展向上と、國家の獨立の爲めに政府はもとより一般民衆も大いに力を注いで來た。之等の内容が充實し向上發展する所に國民の福祉が求められるからである。然るに其後國際關係が緊密複雑となり、一面に於ては之が爲めに各國の受ける利益も加はつて來たが、又他面に於ては利害の衝突も起り易くなり、爲めに面倒な國際問題や國內問題が起る様になつたの

であつて、歐洲に於ても、東洋に於ても現に此種の國際的難問が起つてゐる事は讀者諸賢の知らるゝ通りである。而して此の種の難問題が當事國の間に圓滿なる解決が見られざる場合には、遂に武力に訴へても自國を有利に導かんとするに至る事情は少くない、かゝる場合に國防が充實して居なければ、忽ちにして相手國に征服され支配下に置かれてしまふ。斯くては如何に政治・産業・經濟・財政・思想・文化が發展してゐても、國威を宣揚し得ざるは勿論、國家の意志、國民の活動にさへ制肘を加へられ、時としては切角發達した政治・産業・經濟・財政・思想・文化さへ破壊せらるゝ恐れがある。かゝる事實は歴史を緝けば此所彼所に發見せらるゝのである。被征服者としての國民の苦痛不幸は言ふを待たざる所である。それ故に如何なる國でも獨立的地位を確保せんが爲めには、前記政治・産業・經濟・財政・思想・文化の獨立を圖ると共に平時より國防を強化し如何なる外敵の攻撃に逢つても、斷乎として之を排撃する實力を養つて置かねばならぬのである。斯く觀じ來れば滿洲國は我が國防・經濟・思想・各方面に亘つての生命線である丈に、此の地を永久に安泰に置き我が勢力の下に置いて之を指導する事は單に我が國にとつて必要な計りでなく滿洲國自體の爲めにも必要な事であつて、其の實が擧つて始めて日滿共存共榮が可能となるのであるから、我が國としては此の點に重點を置いた國策を樹立しなければならぬと考へる。特に近年に於けるが如く露國などから我が國體と根本的に相容れざる共產主義思想を移さんとする運動が盛に行はれつゝあるのみならず、何時干戈を交へなければならぬかと思はれる様な難問題が兩國間に横はつてゐる際であるから、一層日滿の國防については注意を拂ひ其の完備を期せねばならぬのである。

顧みるに滿洲國は成立後日尙ほ淺しと雖も、我が國の協力援助によつて急足なる發展を遂げつゝある。然しなから滿洲國は茲當分の間は自國の力丈では當底國防を完備することは不可能である。我が帝國が滿洲國の成立を援助したのは一つは滿洲國の爲めであると同時に、二つには我が帝國自身の爲めでもあるのであるから、日滿兩國の國防も我が國が餘程迄負擔ねばならぬのである。この點に關しては昭和七年九月十五日に調印された日滿議定書にも「日本國及び滿洲國は締約國の一方の領土及治安に對する一切の脅威は同時に締約國の他方の安寧及び存立に對する脅威たるを確認し兩國共同して國家の防衛に當るべきことを約す。之が爲め所要の日本軍は滿洲國內に駐屯するものとす。」と記されてゐるのであつて、我が國防の負擔は決して一時的のものとは考へられない。恐らく將來相當長い年月に亘つてその國防を引受けねばならぬであらうから之が爲めに生ずる人的、物的の犠牲も可成大なるものがあることを覺悟して居らねばならぬ。事變後今日に至る迄滿洲國警備の爲めに右議定書の主旨に従つて内地から軍隊を派遣し、適當なる時期に之を内地の他の部隊と交替せしめて居るのであるが、かゝる交替制度には幾多の不便不利が伴ふが故に、之を除去せんがためには常駐制度を採用するに如くものはない。而して常時は於てはかゝる不利を忍ぶとするも、有事に際しては滿洲國內の治安維持の爲めのみならず、外敵に對しては滿洲國自體のためにも、相當多數の軍隊を滿洲國內在住の日本人から求め得られる様に準備して置くことが必要である。それには同國に數百萬乃至千數百萬の邦人を移住せしめて置きその中から必要なる兵士を何時でも徵召し得る状態に整備して置くことが肝要である。特に農民を大量に同國に送つておくことが必要である。何

となれば農民が自らの土地や家屋を所有して土着し、農耕に従するに於て其の土地を愛護し第二の故郷を死守せんとするの念が最も強いからである。かゝる愛土心にもゆる多數農民が定住することは、單にそれ等の中から多數の強兵を供給し得る計りでなく、兵士以外の農民の國防上に於ける理解や援助も亦充分に期待し得らるると信ずる。斯かる意味に於て大量の農業移民を滿洲に送るといふことは單に經濟的社會的將又文化的意義以外に重要性を持つのであつて、この大量農業移民の實現に依りて滿洲國の國防が強化されると同時に我が帝國の國防も亦遺憾なきを期せられるのである。かくて初めて政治・産業・經濟・財政・思想・文化の向上發展が期待せられ且つ維持せられるのであつて、茲に滿洲建國の理想を實現し五族協和の實を擧げ日滿一體不可分共存共榮の精華を收むることが出来るのである。

## 二 内地の人口問題・農村問題解決の必要

國防の強化を圖り、産業・經濟の發達を期し、文化の向上普及を望む上に人口が多く且つ其の増加率が大であるといふことは喜ぶべきことではあるけれども、しかしながら人口と食糧とが不調和を來たし、經濟的壓迫を受ける様な状態となることがあれば、それは由々しき憂ふべきことである。即ちあらゆる生活部面に於て人間生活が充實し發展し得る程度に於て人口の増加は結構であるが、それ以上の人口即ち人口過剩となるに及べば之が打開策を構じなければならぬ。我が國は面積に比して人口多く且つ増加率大なるを以て有名な國である。即ち日本の總面積は六七五、三八五・二七平方料であつて内地のそれは三八二、五四五・四二平方料であるが其の詳細を示せば

次の如くである。

我が國の面積 (單位平方籽)

地	方	面積	千分比例
總	面積	六七五、三八五・二七	一、〇〇〇・〇〇
内	面積	三八二、五四五・四七	五六六・四〇
本	州地	一三〇、五三二・三二	三四一・三三
四	國	一八、七七二・八三	二七・八〇
九	州	四二、〇七八・九九	六二・三〇
北	道	八八、七七五・〇四	一三一・四四
琉	球	二、三八六・二四	三・五三
佐	渡	八五七・二四	一・二七
淡	路	五九二・九三	〇・八八
隱	岐	三四八・〇三	〇・五二
小	原	一〇二・九四	〇・一五
壹	岐	一三八・五六	〇・二一
對	島	七〇二・九四	一・〇四

國策として見たる我が滿洲農業移民

千島	朝鮮	臺灣	澎湖	關東	南洋	瀋陽	附屬地
一〇、二一三・七七	二二〇、七七六・〇〇	三五、八四六・六九	一二六・八六	三六、〇九〇・三〇	三、四六二・四五	二、一四九・〇〇	二八四・二一
一五・一二	三二六・八九	五三・〇八	〇・一九	五三・四四			

備考 本表は内閣統計局編纂 第五十四回日本帝國統計年鑑に依る。

然るに人口は昭和十年十月一日に於ける國勢調査の結果に依れば、總數九七、六九四・六二八にして内地人口は六九、二五一・二六五の多數に上つて居る。

其の詳細は次表の如くである。

日本の人口及其密度

地方	人口數	一人平方千米に付密度
總數	九七、六九四、六二八	一四五



南洋委任統治區域	關東洲及滿鐵附屬地	帝 國 内 地	六九、二五一、二六五	一八一
		樺 太 嶺 鮮 地	二二、八九八、六九五	一〇四
			五、二一二、七一九	一四五
			三三一、九四九	九
			一、六五六、七六三	四四一
			一〇二、二三八	四八

備考 本表は第五十四回日本帝國統計年鑑に依る。

右表に依りて知らるゝが如くに全國平均人口密度は一四五であつて、之を内地のみに就て見れば實に一八一の多きに達してゐるのである。かゝる大なる密度を有する國は世界に於て英吉利・和蘭・白耳義・白牙利等少數國に過ぎぬのである。かくの如く我が國の人口は絶對數に於ても、其の密度に於ても多い計りでなく、年々の人口増加率も亦高いのであつて、近年は毎年九十萬乃至百萬宛増加してゐるのであるが昭和時代に入つてからの増加の實狀を示せば次の如くである。

毎年人口増加實數及其の率

年 次	増 加 實 數	千人に付増加率
昭和 一 年	一、〇二八、四九七	一六・五八

國策として見たる我が滿洲農業移民

九 年	八 年	七 年	六 年	五 年	四 年	三 年	二 年
九〇〇、六二五	一、〇一六、〇五四	一、〇二八、一二八	九四五、三九四	一、〇〇〇、七八四	九〇一、六六三	九八五、〇一五	九三一、五七五
一四・三二	一四・七五	一五・一六	一四・一三	一五・一九	一三・八七	一五・三九	一四・七七

備考 本表は同上年鑑に依る。

右の如き人口總數並に増加率から推測すれば我が國の人口が一億に達するのは多年を要せぬであらう。かゝる多數の人口を我が國土内丈で充分に養ひ得るか。否單に國民が辛うじて生活して行けるといふ丈では國家の發展は期待が出来ぬ。どうしても國民各自がそれ／＼の地位にあつて充分に活動し生活の内容を充實し向上し發展して行かなければならない。最近數年間に我が國の工業や國際商業は飛躍的に伸びて來た。而して商工業の發展は農業のそれに比して確に多數の人口を養ひ得るものである。

我が國の人口が右述べたるが如く年々多數の増加をなしたに不拘、而も幾多の難問題が横たはつてゐたに不拘今日まで躍進に躍進を重ね國威を發揚し得たのは商工業發展に負ふ所が極めて大であると言はねばならぬ。しか

しながら我が國特殊の事情から見て、國民がすべて商工業に従事してしまふ譯にはゆかない。國民の相當大なる部分は農業に従事しなければならぬ。然るに最近に於ける内地の農家は戸數にして約五百六十萬であるが全耕作面積が狭いの反して農家が多い關係上各戸の耕作面積が一般に狭く〇・五〇ヘクタール未満を耕作するものが約百九十萬戸、〇・九九ヘクタール未満を耕作する者も約百九十萬戸であつて、それ以上を耕作するものは全部で約百七八十萬戸に過ぎぬ有様である。昭和四年以來八年迄の數字を示せば次の如くである。

農家戸數及耕作面積調 (内地)

年次	戸數	耕作面積					
		〇・五〇ヘクタール未満	〇・九九ヘクタール未満	一・九八ヘクタール未満	二・九八ヘクタール未満	四・九六ヘクタール未満	四・九六ヘクタール以上
昭和四年末	五、五七五、六三三	一、九八六、一五五	一、八九九、八四三	一、三三〇、一三三	三、八、〇七七	一、三〇、一六六	六、九、三三六
五年	五、五九九、七〇〇	一、〇〇元、四〇〇	一、九六六、六六七	一、三三七、四七七	三、六、五五五	一、二九〇、五六六	七、〇、九〇一
六年	五、六三三、八〇〇	一、九四一、四六六	一、九三三、七三三	一、三三六、八六〇	三、九、七四七	一、三〇〇、七八八	七、〇、九一五
七年	五、六四三、五〇九	一、九三六、四九九	一、九三三、二九九	一、三三四、八六三	三、四、九四四	一、二九、五三三	七、六、一九一
八年	五、六二二、五五五	一、九二〇、六四四	一、九二七、六〇六	一、三二七、五二七	三、九、三五一	一、二九、五三九	七、六、八八三

備考 本表は同上年鑑に依る。

更に又耕作地所有地を調べて見ると〇・五〇ヘクタール未満のものが二百五十萬戸餘の多數に上り〇・九九ヘクタール未満のものは其の半數以下である。而してそれ以上を有するものは更に漸減してゐるのである。其の詳細

は次表に就て見られたい。

耕地所有者戸數 (内地)

年次	戸數	〇五ヘクタール未満	〇・九ヘクタール未満	三・六ヘクタール未満	四・九ヘクタール未満	九・九ヘクタール未満	九・九ヘクタール以上
昭和四年末	五、〇四、六九九	二、五〇八、八九三	一、二四六、三四五	八九、五〇〇	三三、九八四	一一、四四五	四、四四五
五年	五、〇六、九四五	二、五三、六三三	一、五五六、八九九	八九、九三三	三三、八四四	一一、二九四	四、八三三
六年	五、〇九、四四七	二、五五五、四六八	一、二七三、三三四	八九、二二八	三三、四九三	一一、二八九	四、〇三三
七年	五、一三、〇三八	二、五五、〇八九	一、二六六、〇九〇	九〇、四二五	三三、三三七	一一、四四九	四、六七〇
八年	五、一、九三六	二、五五〇、四七七	一、二六五、〇九六	八九、五〇〇	三三、三七九	一一、一〇四	四、八〇〇

備考 本表は同上年鑑に依る。

右表に依りても知られる如くに、大部分の農民の所有面積も狭く且つ實際耕作しつゝある面積も亦狭少であるのに反して我が國の人口は激増の傾向を示してゐるのであるから、最早や増加人口を農村に收容することが困難になつて來た。近年に於ける農村窮迫の一大原因は農村人口過剰といふ事にある。勿論古くから積み重ねられた多額の負債も亦現在並に將來の發展の障害となつてゐるし、農業金融の不備、農業經營的不合理、農産物販賣組織の不完全等種々なる原因が重り合つて農民を貧困に陥入れてゐるのであるから、農村を繁榮に導かんが爲めには之等の諸因を一掃せねばならぬけれども、農村人口の調和を圖るといふことが最も大切な事柄であると信するので

ある。之が爲めに滿洲に農業移民を大量に送致する必要が感ぜられるのである。尤も我が國全體の人口問題を解決するに滿洲移民丈を以てすることは不可能であるに違いないけれども、しかしながら滿洲移民が或る程度迄は此の問題解決に貢献し得ることは何人も否定し得ないであらう。従つて之によりて農村疲弊を救済し得ることも亦受け容れらるべきであると考えざるべし。特に従來は農業移民の發展地として北米・ハワイ・ブラジル・南洋等が擧げられてゐたけれども、北米・ハワイは夙に其の門戸を鎖し、ブラジルも亦昭和九年コート案が可決せられ移民制限が實施せらるるに至つた。又其他の地方も漸次他國民の移入を制限せんとする傾向を示して來てゐるのであるから、之等の方面には將來特殊の事情の起らざる限り、我が大量農業移民を移植し得る見込は薄いと云はなければならぬ。只日支事變が我が帝國の方針通りに結末がつけば、北支には相當多數の農民を送ることは出来る様になるであらうと期待されるけれども、今の所は事變が進展最中であるから此の點に關しても確信することは出来ぬ。かく觀じ來れば滿洲國こそは現に我に開放された所の一大移民場所であると言はねばならぬ。特に我が滿洲農業移民に對しては他地方のそれに比して非常なる保護を受け利便が與へられるのであるから、極めて有利であると言はねばならぬ。思ふに滿洲國は其の面積一、三〇三、一四三平方料もあつて我が帝國全土の六七五、三八五平方料に較ぶれば約二倍の廣さがあり内地の面積三八二、五四五平方料に對比すれば約三倍半を有するに拘はらず、其の人口は滿漢人のみに就て見れば僅に三千四百萬足らずであつて之に在滿外人を加へても三千五百萬餘に過ぎぬ状態であり、従つて人口密度の如きは一平方料につき二十五人の少き有様であるから、今後一千萬や千五百萬

位は充分邦人を容れ得るのである。而も後にも述べる如く滿洲には未開發の資源も多く農業適地も多いのであつて、滿洲國は我が農業移民を迎へてゐる状態であるからこんなよい移民地は他にない位である。

以上述べ來つた如く我が農業移民を相當多數滿洲國に送り出すといふことが人口過剩に悩む農村人口問題の解決の一助となり、ひいては困窮にあえぐ農村を救済する一導因となり、且つ滿洲國の資源を開發し、産業を發達せしめる結果滿洲國の爲めにも貢獻することが出来るのである。加之滿洲國の産業・經濟などが發達進歩すれば之に附帶して商工業者其の他の滿洲國への進出も出來、日滿兩國の政治・經濟關係も益々緊密になるのは明かである。之等の諸點から考察しても我が農民を多數同國に送致することが絶対に必要であると確信するのである。

### 三 經濟的利益の永久確保上の必要

一部の論者は「滿洲國へ我が移民を送るのは之に依つて同國の資源を開發し、産業を發展せしめることに依つて我が經濟上の利益を得んとするのが主要眼目である。然るに大量の移民を移殖する爲めには多額の國費を必要とする。假令此の犠牲を忍ぶとしても、我が移民が果して彼地で成功するや否やが甚だ疑はしい。否寧ろ從來の經驗に徴すれば失敗の歴史を繰り返して居るのであるから、そんな不確實なことに多額の費用を浪費すべきではない。そんな金があるなればまたく爲すべき事はいくらでもある。そんな不確實な事業を國策として行ふことには反對せざるを得ない。それよりも要は滿洲國の産業を發達せしめて吾々は利益さへ得ればよいのであるから、他の方法を以て其の目的を達成するがよい。而もこのことは決して不可能ではない。即ち從來滿洲へは支那特に出

東省や河北省から多數の移民が流込んで居たのであつて、滿洲國に於て彼等を迎へ保護するならば五百萬や一千萬の移民は左程年を重ねずして得られるであらう。さすれば我が滿鐵も滿洲國の鐵道總局も多額の運賃収入が得られるといふ利益がある。そして同國の治安がよく維持せらるゝに至れば多數の支那移民の努力と相待つて同國の産業は著るしく發展することは明である。斯くて人口も増し、産業も發達すれば次から次へと新産業も興つてくるから、自然購買力が激増する。吾々日本人はかゝる機會を捕へて或は投資をするとか或は日本品の市場として同國を利用すれば、前述の如き犠牲を拂はずして利益が得らるゝではないか、と説くのであるが、かゝる見解は一應尤もの様に思はれるけれども、決して吾人を納得せしむる説ではない。成程論者の言ふが如くに滿洲事變前に於ける我が滿洲移民は遺憾ながら成功したとは言へぬ。しかしその失敗を見たのは後にも述べる様な種々の原因が存するのであるから、之等を除き適當の方法を探るなれば決して成功せぬといふ筈はない。現に既に事變後に於ける數次の移民に依つて之が實證されてゐるのであるから、以前の移民が失敗したから今後の移民も成功が望めないなどの斷定は下し得るものではない。問題は異なるけれども古來から色々な發明や改良をなした人々が度々の失敗に屈せず、失敗が却つて新しき參考工夫を産出だし苦心慘膽遂に目的を達成し世人を驚かし、社會の文化向上に貢獻する所のあつたことは、吾人の見聞する所である。我が對滿移民政策も過去の失敗がどれ程參考になつたかわからないのである。「艱難汝を玉にす」とか「失敗は成功の母である」とかいふ格言は今日も尚光彩を放つてゐると思ふのである。又多額の國費を要するといふ點については決して之を否定することは出来な

い。けれども之は決して浪費ではない。將來永久に亘つて渾大なる經濟上の利益を確保する爲めには、其の出費を惜しんではならぬ。況んや經濟上の利益の外に既に述べた如き國防上、人口問題、農村問題解決上にも利益を受ける計りでなく、後に述ぶるが如き種々なる利益が得らるゝに於てをやである。特に國防上必要である以上は假令經濟上不利であつても多額の國費を費さねばならぬことは言ふ迄もない事である。更に又投資や市場獲得に依つて利益が得られるといふことも全面的に否定する譯にはいかぬけれども、しかし之を以て將來永久に利益が得られると考へるのは誤りである。只滿人や支那人或は他の第三國人に依つて發達せしめられた産業は何時之等の國民に依つて衰頹せしめられるかもわからない。或は政治上軍事上其の他の都合によりて日本人の投資が不利になり市場が閉鎖或は制限されるかも知れぬ。かゝる經驗はヨーロッパ・戰爭後印度に於てアフリカ・濠洲其他に於て吾人の味つた所である。假りに平時はよいとしても一朝事あるに際しては此の種の危險性は極めて大であることを知らねばならぬ。嘗てフランスはロシアに對して百數十億フランの投資をなして一時は巨利を收めて居たけれども、一九一七年突如として起つた革命の結果之を失つた計りでなく、投下資本其のものさへ失つてしまつたではないか。我がロシアへの貸金も同じ原因に依つて同一の結果を得たのであつて、かゝる不利は恐らく他の國でも受けたであらうし、又かゝる實例は世界經濟史を繙く者が所々に求め得らるゝ所であらう。

右の如くであるが故に吾人が滿洲に於て經濟的利益を永久に確保せんと欲するなれば萬難を排し、幾多の犠牲を拂つても、多數の移民を彼の地に送ることが絶對に必要である。我が移民が數百萬乃至千數萬も滿洲に移つて



廣い土地を有し、茲を根據として農業に従事し、土着し以て一大勢力を持つてゐるといふことが最も肝要である。かくてこそ初めて我が投資は確實に保護せられ、我が市場は確固不動の地位を保ち得るのである。見よアメリカに於てあれ程の排日運動が盛であつても、布哇に於ける我が國民の權益を侵すことが出来ないではないか。それは日本帝國の國威が宣揚されたのと、布哇に於ては絶對多數の日本人が土地を持ちて定住し絶大なる勢力を持つてゐるからである。

以上述べるが如き理由に依り吾人は成るべく速に我が大量の農業移民を滿洲國に送り、廣大なる土地を所有せしめ、一大勢力を扶植し以て永久に我が利權を確保せんことを望む次第である。

#### 四 日本文化普及上の必要

今日の日本は文化上から觀察すれば、世界の王座を占めてゐると言つても決して過言ではない。我が文化史が教ふる様に、我が文化は遠き昔から今日に至る迄世界に比類なき我が國獨特の國體に基き、終始一貫一定の方向を辿つて發展し來つたのである。勿論其の發展過程の所々に或は東洋文化を容れ或は西歐文化を迎へたが之等は結局我が特有文化を向上發展せしむる肥料に過ぎなかつたのである。時に肥料の惡質なものを採つた爲めに我が文化を混亂せしめた事はあつたけれども、然し之が爲めに我が特有文化が枯れ失はれてしまつたことはない。而して我が國民は海外文化の消化と我が文化との融合とに努めた結果、今日では我が文化は世界のそれに巔然たる頭角を現はし、指導的地位を占むるに至つたのである。躍進日本に一大光輝を添へるものは日本特有の文化である。

嘗ては印度も滿洲國を含んだ支那も絢爛たる文化を産んで、其の思想は東洋各國を風靡したこともあつて、當時我が國も可成教へらるゝ所が多かつた。然るに年うつり世が變つて、今日では印度も支那も切角發展した文化は全く亡びてしまつたのである。之に引きかへて我が文化は年と共に愈々進み他の追従を許さぬ程に進展するを得、今日では前言せる如く東洋に於ては勿論、嘗て先進國と呼んだ歐洲諸國をさへ指導し得る程になつたのである。かくて吾人は此の進んだ我が文化を先づ盟邦滿洲國に普及せんとする念願を強くする者である。否單に滿洲國丈に之を普及せんとするを最終の目的とするものではない。更に進んで支那に蒙古に印度にペルシヤに、かくて歐洲に濠洲に南北アメリカに、而して遂に全世界に及ぼさんことを望んで止まぬのである。然しながら物の成長發展には自ら順序があり、階段があることを知らなければならぬ。それ故に先づ我が國と最も關係深き、而も我が指導を渴望歡迎してゐる滿洲國に及ぼさんとするのである。之が爲めには學者を彼の地に送るのもよい。又官吏・學生・商工業者を送るのもよい。或は滿洲人を我が國に迎へて教育するのもよいが、之等にも増して必要なのは農業本位の同國に多數の農民を送り彼等を其所に定住せしめることによつて、彼地住民を指導教化することが必要でもあり効果的でもある。斯くして我が文化を海外に普及せしめることは、同時に日本の政治的、經濟的、社會的勢力を扶植し國威を海外に發揚することにもなるのであるが、之は單に我が國にとりて重要な計りでなく、滿洲國自身の爲めにも、海外諸國の爲めにも、従つて世界人類の文化向上の爲めにも必要である。

##### 五 滿洲國の産業開發上の必要

既に前にも述べた様に滿洲國は人口が稀薄であつて廣漠たる未開墾地が各所に横たはつてゐるのであるから、之等の土地に邦人が入植し資本を投下し、優秀なる智識、技術を働かせ、合理的經營をなすことに依つて之を開發し農業を振興せしめることは決して同國人の職業を奪ふものではないのみならず、滿洲農民は我が農民の優秀なる技術や合理的經營法等を見習ひ、之を取入れることになるであらうから、自然彼等の農事改良、農業經營を促進せしむるに違ひない、斯様にして農業が發達すればそれに伴つて、之に直接、間接に關係する諸事業が新しく興り或は發展するから、却つて彼等に仕事を與へ活動舞臺を廣めることになるのである。而して諸種産業が繁榮すれば同國の經濟的地位も高められ、財政的基礎も強化され國家發展を助長する結果を齎すのである。何れの國何れの時代に於ても國家興隆は資源の開發、産業の發展に待つ所の多いのは自明のことである。特に現時の滿洲國の如く産業が幼稚であり資本の乏しい國に於ては此の感を一層深くせざるを得ない。

#### 六 滿洲國の治安維持上の必要

滿洲國は昭和六年九月十八日に起つた柳條溝事變を契機として支那から離脱し、獨立國家を形成せんとする運動が各地に起つた。而して事變が起るや我が國は在滿邦人の權益を擁護する必要上皇軍を滿洲に進め、先づ張學良軍閥を討ち亡ぼし、更に引續いて全滿各地に根據を有する分派勢力に一大鐵槌を下して之を掃蕩し、以て滿洲國の誕生を援助したので、途中幾多の困難が續出したに拘はらず、之を排除し昭和七年二月十八日には全滿獨立を宣言し、次いで二十五日には新國家組織大綱並に新國家建設に關する通電を中外に發するに至つた。而して早

くも三月一日には行政委員會委員長張景惠氏は奉天に於て新國家「滿洲國」の建國宣言を滿洲國政府の名に於て宣言し、茲に初めて同國が呱呱の聲を擧げたのである。而して九月十五日には我が國は武藤信義大將をして滿洲國代表鄭孝胥氏との間に日滿議定書に調印せしめ正式に滿洲國を承認するに至つたのである。筆者は茲に滿洲國の建國史を詳述せんとするのが本意ではないから、極めて簡單に同國建設について記すに止めるが、兎も角滿洲國は至極短日月の間に支那中央政權から離脱して獨立國家となつてしまつたのであるから、獨立直後に於ては勿論今日と雖も内外治安上に幾多の不安が存するのである。特に滿洲には古くから幾十萬の匪賊が横行して治安を亂してゐたのであつて獨立と共に彼等を討伐することが急務であつた。それ故に同國は匪賊討伐に皇軍の援助と協力を要望した。依つて我が國に於ては欣然之を受諾し、日滿兩軍協力し數百回に亘る討伐により多數の人命を犠牲として大部分を始末してしまつたが、尙今日と雖も三・四萬の匪賊が残存してゐる。されば引續きその討伐が行はれる筈である。兎も角現今では匪賊の減少を見たので非常に同國の治安がよく維持せらるゝに至つた。然しながら過去及び現存は勿論將來に於てもロシアや支那から滿洲國治安攪亂の手が差し延ばされると思はれるから、此の點については充分な警戒をしなければならぬ。

以上述べたるが如く、同國の治安は日滿兩軍や其他の警備團等に依つて維持せられて來たし又維持せらるゝであらうけれども、尙ほ其上に我が國が堅實なる移民が多數同國に土着すれば治安維持上にも尠なからぬ便益を與へ得ると思はれるのである。

以上述べ来たつたが如く筆者は各方面から考察して滿洲國建設の大理想の實現する上から見ても、將又日滿一體不可分となつて共存共榮の實を擧げる點から考へても我が農業移民を相當多數滿洲國に送致定着せしめることが絶対に必要であると強調せざるを得ないのである。

### 第三 滿洲農業移民の可能性

#### A 滿洲農業移民成功の見込なしとする説並に之に對する卑見

滿洲農業移民の必要を認めてゐる者の中にも、果して我が滿洲移民が成功し得るや否やに就て疑問を懐く者もあり、又成功する見込はないと考ふる者も尠くない様である。斯かる懷疑なり或は可能性を否定する者の論據は必ずしも同一ではない。左に其の大意を掲げ併せて筆者の愚見をも述べることにする。而して筆者は以下論述する諸點を綜合觀察して結局に於て滿洲農業移民が成功する可能性ありと確信する者である。

#### 一 滿洲事變以前に於ける移民の結果を見て、其の後に於ける

#### 滿洲移民も失敗に歸すべしとする説

我が滿洲移民の沿革に就いては別の機會に稿を起して詳細述べるつもりであるが、兎も角事變前に於ける滿洲移民も朝鮮や臺灣への移民も決して成功したとは言へない。しかしながら之等の移民の結果が悪かつたといふ事實から歸納して、將來に於ける滿洲移民も成功の見込がないと斷言することは誤りである。何となれば過去に於

ける失敗の原因を除去することも可能であるし、之が参考となり、刺戟ともなつて成功に導くべき種々の手段方法が講ぜられ得ると考へるからである。然らば何故事變前の滿洲移民が失敗に終つたか。其の原因として次の諸點が擧げられてゐる。

- 1、個別的分散的移民であつたこと。
  - 2、移民地が關東州内又は滿鐵附屬地内の狭い地域に限られ且つ不良の土地に制限せられてゐたこと。
  - 3、移住者が初めから出稼氣分が強く確固不動の定着性を有しなかつたこと。
  - 4、移民が滿洲の特殊事情に通曉せず、従つて之に適する農業經營及び生活をしなかつたこと。
  - 5、一擲千金を夢みて眞面目に努力しなかつたこと。
  - 6、土地の取得が困難であつたこと。
  - 7、移民計畫が不適當であり且つ其の實施も不徹底であつたこと。
  - 8、一般國民並に政府の援助が少かつたこと。
  - 9、支那官憲特に東北政權が移民に對して壓迫を加へたこと。
- など、が其の重なるものである。右の如き原因に禍せられて、切角滿洲迄行きながら、間もなく歸國したり轉業したり、或は所謂滿洲ゴロに化したりしてしまつて、農村經營者としては落伍してしまつたのである。又朝鮮や臺灣移民についても、右に列擧せる若干の原因により、移殖後間もなく農業から足を洗つて鐵道沿線や交通の

便利な都會地に出て、商業や工業に轉業する者が多かつたのである。

今之等失敗の原因に就て考へて見るに、1、過去の移民が個別的であり分散的であつたことは確によくはない。何となれば先住民族が多數住んで居る中に邦人が少數這入つても決して勢力は得られるものではない。従つて子弟の教育、娛樂慰安、保健衛生、修養、宗教其他萬般の施設が我が意に叶ふ様には實施されないのみならず、農業經營上の不便もあり、之等が妨げられることさへ決して尠くないのである。かくては經營の結果も悪いであらうし、又家族の日常生活も不愉快なものになつてしまふ。さうなれば家長は我慢をして經營を續けやうとしても、家族は之に従はなくなつて、遂に村を出で都市に住み轉業せざるを得なくなるのである。かゝる苦い經驗をなめてゐるから事變後の滿洲移民計畫は集團移民に改められてゐるのであつて、既に數回に亘つて行はれた試験移民の成績から見れば好結果を收め得たのである。集團移民なれば農業經營上の諸施設は勿論、前記各種の施設が全部自分達の都合のよい様に計畫され實行されるのであるから、其の成績が擧がる計りでなく、部落の日本人間で結婚さへ出来る様になるのであるから、移民は楽しく元氣に思ふ存分活動することが出来るのである。特に日本人は團結心に富んでゐるから、この團體勢力を以て土着人と競争すれば極めて有利である。尤も既に各所に多數の集團移民部落が建設せられ、各設備が完備するに至れば、其の附近に個別的分散的移民を送つてよい。何故かと言へば既に集團移民の勢力が附近に及んでゐるし、又其の設備の利用も實際も或る程度迄容易になし得るから、従つて農業經營上は勿論日常生活に於ても意に叶ふからである。2、移民地が狭い範圍でしかも不良の土地に制限せら

れてゐたことも確に移民にとつては不利であつたに相違ないが、今日では此の點は問題にならぬ。即ち滿洲全域に亘つて廣い土地が提供せられ且つ學者や専門家に依りて農業適地として肥沃の土地が選定せられ此所に移住せしめられるのである。又3、4、5等については移民應募者中から特に思想堅實にして滿洲に永住する決心覺悟の堅い者計りを選定してゐる上に、移殖以前に一定の教育を施し又現地に於ても指導員がついてゐて絶えず農業經營上に於ても、日常生活上に於ても指導をなしてゐるのであるから、昔日の移民に比して其の素質が向上し滿洲に骨を埋める決心を以て出發して居るし、先方に於ても生活を樂しみつゝ農事にいそしんでゐる有様であるから、今日では之等の點に關しては心配はないのである。6、の土地の取得の困難は其の後全く解消されてしまつてゐる。後にも述べる如くに一戸二十町歩の標準に依つて容易に土地が得られるのである。7、移民計畫に就ても後述する考であるが今日では政府が滿洲移民の重要性を認めて學者専門家の意見を參考とし、又實地調査の結果を基礎として適切なる計畫を樹立し、且つ之が徹底的實施に努力してゐる。又8、の點に關しても滿洲事變以後滿洲移民に對する認識が一般國民の間に深められ、移民實施を後援する團體等も續出し、政府の援助も高まつて來たのであるから、今日の移民は甚だ幸福である。又今日では9、の支那官憲の壓迫の如きは全然ないのは勿論滿洲國政府に於て好意的に種々の便宜を與へてゐるのであるから、この點に關しても少しも憂ふるには及ばぬのである。

以上の如く古き移民に於て失敗を齎した諸原因は現今全く除去されてゐるのみならず、積極的に外部から移民



成功への援助、努力が行はれてゐるのであるから、之等の點から見て將來の滿洲移民の可能性は充分あるものと信ずるのである。

## 二、先住民との關係より見て失敗すべしとなす説

日露戰爭以後三十年間に日本人が滿洲に渡り、或は農業に或は商業に將又工業に従事し、或は勞働者として働いたものは相當あつたけれども、其の大部分は失敗してゐる。それは滿・漢人は概して體力も秀で、居り且つ勤勉であるのみならず、生活程度も低いから、體力が劣つて居り、生活程度の高い日本人は競争上不利な爲めである。だから切角日本人が職に就いても漸次驅逐されてしまふのである。この經驗より推して將來滿洲に移民を送つても同様の運命に追ひつめられるに違ひないなど悲觀説をなすのである。論者の言ふが如く彼は我に比して體力が優つてゐるが故に肉體的勞働に於ては優位に立つてゐる。又文化の程度が低くから欲望も低級であり單純であるが故に生活程度も低いことは事實である。しかしながら日本人が彼等に比して優れてゐる點を見逃がしてはならぬ。彼等は個人的活動にはすぐれてゐるけれども、團體的活動に於て邦人に比すべくもない。加之農業技術に於て、又農業經營方法に於て日本人は群を抜いて優秀である。我が移民は決して資本が豊富であるとは言へぬけれども、而も尙土着の農民に比すれば豊かである。更に又彼等の婦女子は農業勞働を好まざるに反して日本の婦人は殆んど男子に等しい程の勞働にも従事するのである。其の一例を見んに滿洲第二次移民團が千振郷に於ける近況を報告してゐるが、その中に「團員及び家族は將來に大なる希望を抱いて或は農耕に、或は牧畜に、或は

雜事に日々孜孜として奮闘して居る。……團員の努力は勿論であるが、妻女達の働きも實に目覺ましいものがある。彼女達の多くは子供を抱へ未明(北滿の夏の未明は午前三時)に起き出で炊事をなし、四時迄に食事を終り、子供を背にして働き、夕刻になれば一足先きに歸宅して夕食の仕度をなし、風呂の準備をするなど全く男子以上の働きをなして居り、炎天に曝されて子供まで眞黒に日焦けする有様である。此の働き振り、其の神々しい姿には自ら頭が下り唯々感激の念あるのみである。……なほ生産物の一部は團員も妻子も自ら擔ひ或は携げて湖南營市街に賣りに出てゐるが妻子達でも毎日二圓内外宛の賣上がある。」(註 滿洲經濟情報 第二卷第五號五頁―六頁)

此の事實は決して千振郷に於ける移民の婦女子に限られたる事ではない。我が滿洲移民の女達の共通に實行してゐる活動を現はしたものであつて、此の點は到底滿漢婦女子の能く爲し得る所でないのである。右の如く假令個々の體力に於て劣り、生活程度に於て不利な所があるにしても、團體的活動、資本の豊富、技術の優秀、經營の合理化、婦人の活動等に於て斷然有利であるから長を以て短を補ひ得るのであつて、之等の諸點を綜合して滿洲移民の可能性を認めざるを得ないのである。

### 三、日滿農法の相異より見て成功の見込なしとする説

論者は「日本の農法と滿洲のそれとの間には顯著なる差異があるから滿洲の農法に心得なき日本の農民が滿洲に移住しても到底滿洲在來の農法の轉從せらるゝものではないから失敗に終るのは當然である」と主張をする。確かに日滿兩國國民の農法には甚だしき差異はあるが、滿洲に於て農業經營に成功する爲めには必ず滿洲農法に依

らねばならぬ理由はない。若し滿漢人の農法が日本農民の農法に比して進歩してゐるなれば之に轉従することは意味があるけれども、若し我が農法が彼のそれに比較して進んでゐるなれば、彼こそ我に倣ふ必要はあつても我から彼に倣ふ必要は毛頭ない筈である。事實は日本農民の技術は滿漢人よりは遙かに進んでゐるのであつて、假令そのまゝの技術を滿洲農業に用ふることは出来ないにしても、之を應用し得る丈の智能を日本人は持つてゐる。

彼れに長所があれば之を取入れることは決して不可能ではない。入殖當初に於て事情に不安内の爲めに又經驗が少い爲めに色々な失敗もあらうけれども、多年經驗を重ね研究を進めるなれば滿洲農業に適したる農法を發見し之に適した經營を爲し得ることは難事ではない。現に我が試験移民に於ても指導者は經營上各方面に亘つて調査研究をなして團員の指導に當つてゐるのであつて滿洲に適當せる農法、作物の種類、病虫害の驅除、經營方法、産物販賣の組織化、副業の發見等に努めて居るのであつて、之を團員に實際に行はしめて効果を擧げてゐることは試験移民の報告に依つて明である。それ故に前記悲觀論者の考は最近數年に亘る經驗に於てさへ全く杞憂に過ぎないといふことが實證されてゐる次第であるから、日滿農法の差異の如きは成敗を決する重要問題とするに足らぬのである。尙ほ日本の農業は米作を主とする集約的農業であるけれども、滿洲の農業は雜穀を主とする粗放的農業であるから、一定面積からの収益は極めて少い。従つて廣い面積を耕作する經驗の少い日本農民が移住して之に従事しても、收支は償はないと説く者もあるけれども、此の主張も結論に於て當つてゐない。今日迄の試験移民の實蹟に徴しても、第一次、第二次移民の入殖の年、その翌年位は匪賊に妨げられて或は播種の時期を失し、或は

之を討伐する爲めに農事經營に専念することが出来なかつた等の理由に依つ收支償ばざることはあつたけれども治安が維持される様になつた後に於ては、相當の利潤を擧げてゐるのである。更に年を経て經驗と研究とを重ね耕作法や經營法が進歩し交通機關が發達すれば收益の増加を圖り得ることは間違ないと言ひ得るのである。

以上の外にも悲觀論を唱へる者の論據は多々あるけれども、此所には之位に留めて置く。兎も角右に依りて滿洲移民不成功論者の要點だけを明かにするを得た。而して過去の移民の結果が思はしくなかつたのは相當の理由があつたのであるけれども、今日では之等の失敗理由が存在しなくなつたのであるから、此の點を明かにして滿洲移民成功の可能性あるを主張したのであるが尙ほ此の外滿洲移民の可能なる所以を次の諸點から考察することにする。

## B 滿洲農業移民可能論の論據

### 一、滿洲國の氣候風土

滿洲國の氣候は所によりて甚だしく異なるけれども概言すれば冬期は寒氣甚だしく、所によりては零下五・六十度にも達することがあつて青い草木など見ることさへ出来ぬ有様であり、且つ寒期が長いから苦痛は多い。それ故に滿洲は日本人には住み得ない所であると説くものがあるけれども、之は當つてゐない。從來豫想外に邦人が寒氣の爲めに困つたのは、氣候に對する智識を欠き寒さに堪へる生活様式を知らなかつた結果である。今日では屋内の暖防設備も住宅の建築構造も改良せられて來た。又衣服にしても食物にしても能く寒氣に堪へ得る工夫がこ

らされてゐるから決して寒くて住めぬなどいふことはない。樺太や北海道には満洲に劣らぬ程寒い地方があるに不拘、之等の地方に邦人が多數住んでゐる點から見ても満洲が氣候が寒すぎて生活が出来ぬなどと斷定するのは誤りである。夏も可成暑いけれども期間が短いのと、空氣が乾燥してゐると、朝夕が涼しいので暮し易いのである。河川の水は濁り、草木の種類や山の形や其他一般の地形も單調であつて變化に乏しいから殺風景ではあるけれども、又一面には大陸的な大規模な風景が眼前に開展されてゐるから慰められる所もある。兎も角風景の良し悪しの如きは大きな問題ではない。又満洲には風土病があつて困ると心配する者もあるけれども、之とても土地を選ばはたいしたことはなく、又衛生思想や保健衛生設備、醫療施設などが進んで來れば風土病や流行病も追々撲滅することも可能である。要するに満洲の氣候風土の點から見て日本移民が住めぬとの結論は出ない譯である。

## 二、農業適地の豊富

今日の滿洲國に耕作を爲し得る土地が幾何あるかは正確な統計が無いから判明せぬけれども、舊滿洲政權時代に鳳山設治局・東興設治局・徳都設治局等の移民局で調査した所を基礎として推定すれば熱河省を除く滿洲國に於て既耕地が千二百萬町歩、未開墾地が千八百萬町歩ある。しかしながら實際に開墾して農業用地となし得る土地は之よりも遙かに多いと思はれる。何となれば右の數字は平地文であるが、山の斜面で相當肥沃であり耕作地として用ひ得られる土地が随分廣いのであるけれども、之は全然右計算の中にいれられて居らぬからである。そ

れ計りでなく平地にも曹達地帯とか、鹽分含有地帯などが可成多いのであるが、之等も農業不適地として調査されてゐるのである。然るに専門家の意見に依れば之等の土地も松花江・遼河其他の河川の水を利用して曹達なり鹽分なりを流ひ去つてしまへば、立派な耕地として用ふことが出来るのである。又沼澤なども多いが之等も多少の費用をかけさへすれば田畑としての用をなす譯であるからである。現在までの滿洲では人口稀薄な爲めに平地丈でさへ半分も耕すことの出来ぬ有様であるから、右の如き土地は農業用地として考へられてゐなかつた譯である。平地丈でも千八百萬町歩ある上に斯くの如き目のつけられて居なかつた土地も澤山あることであるから此の點は我が移民にとつては誠に幸なことである。

### 三、地 味 の 肥 沃

滿洲の地味は所によりて非常に異なるけれども概して南滿地方は地味悪しく、北滿地方特に松花江嫩江の河孟地方三萬方里の地域は肥沃であり又吟爾賓北方の呼爾川兩岸等も豊度が高い。我が第一次及第二次移民の活躍してゐる三江省の永豊鎮湖南營地方の如きは肥土が二・三尺にも及び豆・高粱・粟等の所謂普通作物なれば無肥料でも多くの收穫があり、しかも十年、二十年も施肥の必要がない所さへあると言はれて居る。野菜等の特殊作物でも人糞・牛馬糞・堆肥位で充分であり、地味が瘠せてくれば少し休閑地として置けば舊に復するといふ誠に恵まれた所が多いのであつて、かゝる土地は日本内地では到底求められぬのである。そのみならず冬期になると地面から三・四尺乃至五・六尺下迄完全に凍つてしまひ、之が五月頃解け始める爲めに土塊が自然に碎けて澎軟と

なり、空氣の透入をよくし従つて土壤の風化分解作用が行はれるから數尺も深く耕したと同様の状態になり嚴寒が農作物に及ぼす利益は大である。内地では深耕法が必要でありその爲めに幾多の勞力と費用とを要するけれども、滿洲では之を自然がやつてくれるから人力に依る深耕法は必要でないので之丈でも農民の得る所は極めて大である。又寒氣甚だしき爲めに農作物に惡影響を及ぼす病害虫の發生繁殖を防ぐ利益もあるのみならず耕作地が廣い爲めに牛馬なども充分に利用が出来るし、機械の使用も容易であるから内地の農民に比し經營費用の節約が出来るから、農業經營上受くる利益は決して尠くない。右の如くであるから過去に於ける試験移民も概して良好の成績を收めてゐるのである。更に耕作法や種苗の改良病害虫驅除法などが進み、交通が發達して運賃が遞減し、販賣組織が完備すれば、更に一段と収益を高めることが出来ると思はれるのであつて、この點から見ても滿洲移民の可能性は充分であると確信するのである。

#### 四、我が政府の保護

既に前にも述べたるが如く、事變以前にありては我が政府が積極的に國策として移民計畫を確立することなく、従つて法制上に於ても財政上に於ても治安上に於ても保護を加へることが甚だ少なかつたから或は土地を得ることに極めて困難が伴つたり、移民資金が不足したり、或は匪賊の横行に苦められたり、舊東北權に壓迫せられたりして、殆んど我が移民の發展は不可能であつたけれども、滿洲國成立後に於ては我が確固たる移民計畫が樹立され法制上・財政上・治安上非常に保護を加へる様になつた計りでなく、滿洲國政府も亦我に協力して種々

の援助保護を加へてくれる様になつたから、現今では往時の障害が除去されたのは勿論、更に進んで積極的に日滿兩國政府から保護が加へられる様になつたので今後の移民の成功は期待し得らるゝと考へる。

#### 五、生活程度向上の可能

思ふに内地人が滿洲國に移民をなさんと希望するのは、内地に於けるよりも滿洲國に定住する方が經濟的にも財政的にも其他あらゆる點を綜合して、より安定した高度の生活を享受したいとの希望に基くものである。少くとも移殖當初に於ては不満足の所があつても、將來に於て之を實現し得ると信じてゐるからである。切角故國を去つて滿洲國に行つても永久により充實した、より發展した生活が出来ないとすれば、我が移民は永く彼所に定住することは不可能であり、従つて我が移民の成功發展は期待し得られぬ譯である。然らば現在の滿洲移民は如何であるかと言へば必ずしも内地の生活に比してよりよい生活を爲してゐるとは考へられぬけれど、それは將來躍進への階段であり基礎を造る爲めの犠牲であつて、日滿兩國政府の援助と保護とがあり、移民自身の努力に依り益々技術の向上や、經營方法の合理化を圖り團員一致協力して活動するなれば漸次利益の増加も可能であり、従つてより高き生活も享受し得らるゝ事と信ぜられるのである。特に廣漠たる未開地があつて之等が安價で容易に取得し得られる上に、治安も日一日とよく維持せらるゝ於ては一層内容の充實した豊かなる生活を實現し得る見込は充分あると言へるであらう。

以上を要するに我が滿洲移民の成功には幾多の困難犠牲は伴ふけれども、しかしながら、外部から政府や民衆



が充分に後援保護してやり又移民自らが「功成らずんば死すとも歸らず。骨を滿洲に埋むるは覺悟の前である」の牢固たる決心を持ち、移民の眞意を解して眞面目に一致協力して働き、滿洲の特殊事情に通曉して、それに適する様に農業經營も日常生活も營むことを忘れず、而して日本の優秀なる智識技能を遺憾なく發揮し、經營の合理化を圖ると共に一切の障害を排除して研究を續け努力に努力を重ねていくなれば成功は疑ないと確信することが出來るのである。

(昭和十三年一月廿七日稿) (未完)